

建設工学セミナーI
Seminar on Civil Engineering 1

演習 1単位 1学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の研究室において行われるセミナーに学生を参加させ、セミナーの題目は学期毎に学生の希望を勘案して定める。

建設工学セミナーII
Seminar on Civil Engineering 2

演習 1単位 2学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の研究室において行われるセミナーに学生を参加させ、セミナーの題目は学期毎に学生の希望を勘案して定める。

建設工学セミナーIII
Seminar on Civil Engineering 3

演習 1単位 1学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の研究室において行われるセミナーに学生を参加させ、セミナーの題目は学期毎に学生の希望を勘案して定める。

建設工学セミナーⅣ
Seminar on Civil Engineering 4

演習 1単位 2学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業内容及び授業方法】

各指導教官の研究室において行われるセミナーに学生を参加させ、セミナーの題目は学期毎に学生の希望を勘案して定める。

建設工学特別実験・演習I
Research Work of Civil Engineering 1

演／実 2単位 1学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業目的及び達成目標】

指導教官の研究室において行われる研究実験に学生を参加させ、必要に応じて特別に実験を行わせる。

建設工学特別実験・演習II
Research Work of Civil Engineering 2

演／実 2単位 2学期

【担当教員】

各教員 (Staff)

【授業目的及び達成目標】

指導教官の研究室において行われる研究実験に学生を参加させ、必要に応じて特別に実験を行わせる。

【担当教員】

高橋 修・帆苺 浩三

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟704

【授業目的及び達成目標】

道路は重要な社会基盤の一つであるが、道路を構成する主要構造物としてのアスファルト舗装に着目し、アスファルト舗装の設計、施工、管理において不可欠であるアスファルト混合物の特性と配合設計法に関する基礎知識を身につける。本授業では、アスファルトおよびアスファルト混合物の物性と配合設計法に関する既往の研究、最新の研究動向について知識を修得することを目的とする。

【授業キーワード】

舗装工学, アスファルト混合物, 配合設計, Superpave

【授業内容及び授業方法】

以下に記した授業項目について、最初の授業で指定した技術文書および適宜配布する資料(プリント)に基づいて授業を行う。要点および理解し難い内容については、板書あるいはOHPを用いて説明する。内容の理解を促すために、内容についての演習問題を適宜学生に課すこととし、その授業内で解答と解説を行う。施工と品質管理については、非常勤講師による集中講義形式で授業を行う。

【授業項目】

- 第1週 アスファルトおよびアスファルト混合物の基礎事項
- 第2週 アスファルトバインダーの諸元と物理性状
- 第3週 アスファルトバインダーの評価法
- 第4週 アスファルト混合物の特性とその評価法
- 第5週 アスファルト混合物の配合設計
- 第6週 我が国のアスファルト混合物配合設計
- 第7週 我が国のアスファルト混合物配合設計法の問題点
- 第8週 米国Superpaveアスファルト混合物配合設計法
- 第9週 Superpaveのアスファルト混合物配合設計の具体的手順
- 第10週 Volumetricパラメータとその考え方
- 第11週 Superpaveと我が国のアスファルト混合物配合設計法の比較
- 第12週 アスファルト混合物配合設計の最新の研究動向
- 第13週 アスファルト混合物の現場施工と施工管理
- 第14週 アスファルト混合物の品質管理
- 第15週 期末試験

【教科書】

最初の授業に指定する技術文書、および授業中に配布するプリント類

【参考書】

国内外のアスファルト混合物に関する学術論文

【成績の評価方法と評価項目】

成績の評価は、授業で行う演習問題の解答(20%)、期末試験(60%)、および非常勤講師による授業内容のレポート(20%)によって行う。評価の際に判定に用いる項目は下記のとおりである。

- ・アスファルトバインダーの特性とその評価法を知っている。
- ・アスファルト混合物の特性とその評価法を知っている。
- ・マーシャル配合設計法の手順を理解している。
- ・Superpave配合設計法の手順を理解している。
- ・上記二つの設計法のメリットとデメリットを理解している。
- ・Volumetricパラメータの考え方を理解している。
- ・Volumetricパラメータを計算できる。
- ・アスファルト混合物の施工方法と管理方法を知っている。
- ・アスファルト混合物の品質管理方法を知っている。

【留意事項】

本授業は学部授業の「交通工学」および「道路工学」と関連するので、これらの科目を受講済であることが望ましい。

【参照ホームページアドレス】

<http://roadman4/~douro2/> (学内専用)
道路工学特論のページ

【担当教員】

丸山 暉彦・野村 健一郎

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟707室(丸山)、非常勤講師(野村)

【授業目的及び達成目標】

舗装設計法に関する最新の研究論文の内容理解を通じて、研究の進め方を習得する。

【授業キーワード】

舗装材料、舗装構造、リサイクル、維持管理、ITS

【授業内容及び授業方法】

研究の背景、問題点の発見、問題解決方法を考えながら研究能力向上を図る。

【授業項目】

1. ポーラス舗装の開発
2. 改質アスファルトの開発
3. 舗装非破壊試験の歴史と現状
4. アスファルト混合物の疲労破壊試験
5. 舗装材料のリサイクル
6. 冬期道路管理
7. ITS(高度道路交通システム)
8. 舗装マネジメントシステム
9. コンクリート舗装の施工と維持修繕
10. 道路景観工学
11. 道路構造設計法の歴史と現状、限界状態設計法
12. 特殊な舗装(野村講師)
13. 橋面舗装(野村講師)
14. 空港舗装(野村講師)

【教科書】

授業中に指定する学術論文による。

【成績の評価方法と評価項目】

レポートを課し、本講の内容を各自の専門研究にどのように応用できるかを問う。

【留意事項】

道路工学特論の講義内容と密接に関連している。

【担当教員】

杉本 光隆

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟808室

【授業目的及び達成目標】

地盤工学で用いられる計測データの統計学的取り扱い方を修得することを目的とする。具体的には、
(1)線形問題に対する逆問題の解析法を理解すること、
(2)非線形問題に対する逆問題の解析法を理解すること、
(3)計測データの統計学的見方を修得すること、
(4)外乱が入る場合の、ロバスト推定法を理解すること、
を目標とする。

【授業キーワード】

統計学, 最小二乗法, 非線形問題, 線形代数, ロバスト推定法

【授業内容及び授業方法】

計測データの統計学的取り扱い方の理論的基礎を講義するとともに、具体的応用例を紹介する。なお、講義ノートを配布するとともに、プロジェクター、板書を用いて講義を行う。

【授業項目】

- 第1週 概論
- 第2週 確率・統計の復習
- 第3週 線形最小二乗法
- 第4週 非線形最小二乗法
- 第5週 誤差論概要
- 第6週 誤差論1
- 第7週 誤差論2
- 第8週 最適化法の概要
- 第9週 最適化法1
- 第10週 最適化法2
- 第11週 連立方程式の解法
- 第12週 データ評価法
- 第13週 ロバスト推定法
- 第14週 事例紹介
- 第15週 レポート課題解説

【教科書】

特になし

【参考書】

最小二乗法による実験データ解析、中川徹・小柳義夫著、東大出版会

【成績の評価方法と評価項目】

成績評価方法:

2回のレポートにより成績評価を行う。

成績評価項目:

- (1)線形問題に対する逆問題の解析法がわかる。
- (2)非線形問題に対する逆問題の解析法がわかる。
- (3)計測データの統計学的見方がわかる。
- (4)外乱が入る場合の、ロバスト推定法の考え方がわかる。

【留意事項】

線形代数(学部レベル)を履修していることが必要である。
※平成年代の偶数年度に開講する。

【担当教員】

豊田 浩史

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟705室

【授業目的及び達成目標】

地盤の動的問題を幅広く取り扱い、地盤特性の整理方法等について学ぶ。土の特性として、微小変形から大変形(液状化)まで取り扱う。動的問題の様々な取り扱い方について理解し、原位置および室内試験方法も紹介する。

1. 等価線形化法とそのモデル化による数値的取り扱いを理解する。
2. スペクトル解析法を理解し、全応力法である一次元の重複反射理論を学ぶ。
3. 土の動的変形特性の影響因子とその測定方法について学ぶ。
4. 非線形骨格モデルについて学ぶ。
5. 液状化のメカニズム、影響因子、被害例、対策法について理解する。
6. 有効応力法を用いた液状化解析法について学ぶ。

【授業キーワード】

土質力学, 力学一般, 動的問題, 地震, 液状化

【授業内容及び授業方法】

基本的に板書により講義を進め、応用的な問題に関してはプロジェクターを使用する。理解を助けるための資料として、プリント等をその都度配布する。各種理論式の誘導や計算問題については、その使用方法について理解が深められるように解説する。

【授業項目】

1. 履歴曲線の等価線形化 (2週)
2. 数値モデル (3週)
モデルと複素表現, 粘性型, 非粘性型
3. 重複反射理論 (2週)
基本方程式, 境界条件と初期条件, 多層地盤
4. 土の動的変形特性 (2週)
測定方法, 影響因子
5. 非線形履歴モデル (1週)
H-D, R-Oモデル, Masing則, Bauschinger効果
6. 様々な地盤振動 (1週)
地震, 波浪, 交通荷重, 要素実験方法
7. 砂地盤の液状化 (2週)
定義, 被害例, 影響因子, 対策例, 特殊土の液状化
8. フーリエ解析法 (1週)
不規則波の周波数領域への分解法
9. 期末試験 (1週)

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

石原研而:「土質動力学の基礎」(鹿島出版会)

【成績の評価方法と評価項目】

レポートおよび平常点30%, 期末試験70%により成績評価を行う。レポートでは理論式の展開と計算問題を、期末試験では理論を応用問題に適用できるかを問う。期末試験では筆記用具以外持込み不可とする。

【留意事項】

※平成年度番号の偶数年度に開講する。

【担当教員】

大塚 悟

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟802室

【授業目的及び達成目標】

土木構造物の安定性評価に関する基礎理論の修得を目的に、連続体力学及び塑性論の基礎について講義する。特に、構造物の安定性に関する塑性定理について詳述し、有限要素法を用いた極限解析手法について理解を深める。

【授業キーワード】

安定解析, 連続体力学, 塑性論, 有限要素法

【授業内容及び授業方法】

講義及び演習

【授業項目】

- (1)排連続体力学
- (2)弾塑性論の基礎
- (3)塑性定理と極限解析
- (4)有限要素法

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

市川康明著「地盤力学における有限要素法入門」(日科技連)

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験

【留意事項】

連続体力学、有限要素法の基礎的知識(学部程度)が望ましい。
※平成年号の奇数年度に開講する。

【担当教員】

細山田 得三

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟807室

【授業目的及び達成目標】

水工学、水理学の基礎である流体力学を学ぶことで、水工学、水理学、河川工学、海岸工学などを統一的に体系付け、その理解を深めることを目指す。流体力学のカバーする範囲は広いが、特に建設工学の分野を視野に入れ、非圧縮性の流体现象や境界層流れについて理解する。

【授業キーワード】

流体力学、水理学、境界層近似、乱流モデル、河川工学

【授業内容及び授業方法】

板書を用いて講義する。

【授業項目】

- 第1週 流体力学の基礎方程式
- 第2週 ナビエ・ストークス方程式の厳密解
- 第3週 境界層近似の概念
- 第4週 層流境界層流れ
- 第5週 境界層方程式の応用
- 第6週 自由流の解析
- 第7週 層流の密度流
- 第8週 境界層方程式の近似解法
- 第9週 乱流のモデル化
- 第10週 乱流モデルによる傾斜密度噴流解析
- 第11週 平面二次元密度噴流と噴流の解析
- 第12週 成層した流体中の密度噴流の層積分解析
- 第13週 泥水流の解析
- 第14週 開水路浮遊砂流
- 第15週 期末試験

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

- 「流体力学」今井功著、裳華房
- 「流体力学」日野幹雄著、朝倉書店.
- 「Boundary Layer Theory 7th Ed.」Schlichting , McGraw Hill.

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験を行い、成績評価を行う。試験では単に知識を問うのではなく、理解力を問う。

【留意事項】

水理学、流体力学の基礎知識があることを前提とする。また、微分、積分などの数学的手法について、知識があることが望ましい。

【担当教員】

細山田 得三

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟807室

【授業目的及び達成目標】

海岸・海洋に生じる種々の現象は複雑多岐にわたっており、これらを統一的に理解し、予測するためには数値シミュレーション手法を習得しておく必要がある。本講義は、海岸海洋における現象を理解しそれを数値実験によって表現する手法を学習する。また、各種数値計算手法の特性や計算の安定性、実現象への適用性などについても配布資料(英語)を読んで理解し、パソコンとプロジェクタでその内容の発表を行ない、内容の理解を深める。また、実際にプログラムを作成して波動と流れの実際の様子を観察する。

【授業キーワード】

数値流体力学、数値波動シミュレーション、差分法、有限要素法、境界要素法、流れの可視化

【授業内容及び授業方法】

受講者を文献の各項目に分配し、各自精読して内容の把握、プログラムの作成、プレゼンテーションの作成をそれぞれ行なう。講義ではその内容を発表し、教官の審査、質問を受ける。教官は発表内容の不明な点について解説を行なう。また学生間で質疑討論を行なう。提出物はプレゼンテーションに用いたファイルおよびプログラムである。

【授業項目】

以下の内容について学生自身が文献調査と発表を行なう。

- 第1週 計算力学と波動力学についての解説(教官担当)
- 第2週 ボックスモデルによる物質輸送計算
- 第3週 有限差分法(陽解法)
- 第4週 Kinematic Wave
- 第5週 拡散
- 第6週 簡易的な海浜変形モデル
- 第7週 地盤の圧密モデル
- 第8週 移流・拡散数値モデル
- 第9週 塩水くさびの数値モデル
- 第10週 境界層
- 第11週 長波(数値解法)
- 第12週 長波(1次元)
- 第13週 長波(2次元)
- 第14週 ポテンシャル流れ
- 第15週 有限要素法

【教科書】

特に指定しない。プリントとOHPを使用する。

参考書は適宜購入することが望ましいが、図書館や教官から借用することもできる。

【参考書】

寺本俊彦編「海洋物理学I,II」東京大学出版会など
堀川清司「海岸工学」東京大学出版会
河村哲也「流体解析I」森北出版
高橋・棚町「差分法」培風館
八田夏夫「流れの計算」森北出版
Cornelis B.Vreugdenhil: Computational Hydraulics Springer-Verlag

【成績の評価方法と評価項目】

出席とレポートおよびプレゼンテーション内容とそのファイルを用いる。

【留意事項】

1. 受講者は流体力学、水理学、水工学等の講義を受講した経験があることを前提とする。
2. 情報処理関係の講義も受講しておくことが望ましい。
3. 本講義は英語の資料を読み、その内容をプロジェクタで発表する。このため個人あるいは研究室でパソコンが自由に使える環境にあることを想定している。
4. 流体計算以外に地盤・材料・構造系の数値計算を研究として行っている人の参加を勧める。
5. 教官のe-mail rng@nagaokaut.ac.jp
※平成年度の奇数年度に開講する。

【参照ホームページアドレス】

<http://rng.nagaokaut.ac.jp/advj/>(学内からのみ)

【担当教員】

岩崎 英治

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟803室

【授業目的及び達成目標】

鋼・土・コンクリート構造物などの連続体に対する数値解析法として有用な有限要素法(FEM)について講述する。

【授業キーワード】

構造解析学, 力学一般

【授業内容及び授業方法】

板書, プリント, OHPを用いて講義する.

【授業項目】

- 1) 有限要素法の基礎概念(1週)
- 2) 連続体力学の基礎(2週)
- 3) 有限要素法の基礎(1週)
- 4) 有限要素法の定式化(5週)
- 5) 有限要素法の緒技法(3週)
- 6) 有限要素法のプログラミング(3週)

【教科書】

指定しない。

【参考書】

O.C. Zienkiewicz: マトリックス有限要素法、培風館
R.H. Gallagher: 有限要素解析の基礎、丸善

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験により成績評価を行う。

【留意事項】

※平成年号の奇数年度に開講する。

【参照ホームページアドレス】

http://comp.nagaokaut.ac.jp/~iwasa/lecture/lecture_m1.html

【担当教員】

岩崎 英治

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟803室

【授業目的及び達成目標】

有限要素法の発達と共に、構造物の複雑な非線形挙動の解析が可能になり、そのような解析の需要が増えている。そこで、有限要素法を用いた構造物の非線形解析法に関する講義を行う。

【授業キーワード】

構造解析学, 力学一般

【授業内容及び授業方法】

板書, プリント, OHPを用いて講義する。

【授業項目】

- 1) 非線形解析概論
- 2) 座屈解析
- 3) 有限変位解析
- 4) 弾塑性解析
- 5) 非線形解析のための数値計算法

【成績の評価方法と評価項目】

期末試験により成績評価を行う。

【留意事項】

※平成年号の偶数年度に開講する。

【担当教員】

長井 正嗣

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟702室

【授業目的及び達成目標】

数値解析法の一つである境界要素法について、有限要素法と対比しつつ、その概念、具体的計算法、応用法について講義する。あわせて、橋梁構造物の設計と関連付けた有限要素解析法について講義する。

【授業キーワード】

数値解析、境界要素法、積分方程式、有限要素法、橋梁

【授業内容及び授業方法】

板書、OHP、プリントを用いて講義する。

【授業項目】

1. 境界要素法概説
2. 2, 3次元ポテンシャル問題の定式化と解析
3. 2, 3次元静弾性問題の定式化と解析
4. 数値計算上の注意点とプログラムの作成法
5. 有限要素法との混用解析法
6. 橋梁構造物の設計と有限要素法
7. 箱桁の断面変形、シヤラグ現象と設計
8. 断面変形とシヤラグの有限要素解析法

【教科書】

なし

【参考書】

榎園正人、「境界要素解析」、培風館

【成績の評価方法と評価項目】

レポート(100%)

【留意事項】

なし

※平成年号の奇数年度に開講する。

【担当教員】

宮木 康幸・宮崎 正男

【教員室または連絡先】

非常勤講師(宮崎)

【授業目的及び達成目標】

主として鋼構造物の製作、施工に関して体系的な講義を行う。また橋梁の風に対する挙動、耐風構造についての講義を併せて行なう。

【成績の評価方法と評価項目】

レポートによる評価

【留意事項】

※平成年号の奇数年度に開講する。

【担当教員】

丸山 久一・坂田 昇

【教員室または連絡先】

事務局棟副学長室(丸山)、非常勤講師(坂田)

【授業目的及び達成目標】

鉄筋コンクリート部材の耐震設計、およびそのバックグラウンドとなる動的応答解析手法について理解を深めるとともに、高流動コンクリートや高靱性繊維補強コンクリート等、最新のコンクリート材料技術の実際について習得する。

【授業項目】

- ① 耐震設計法の現状
- ② 1自由度系の振動
- ③ 応答スペクトル
- ④ 数値積分法
- ⑤ 多自由度系の振動
- ⑥ 高流動コンクリートの技術の現状
- ⑦ 高靱性繊維補強コンクリートの特性
- ⑧ 最近の混和材料
- ⑨ 最近のコンクリートの品質管理とその問題点

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

Ray W. Clough, Joseph Penzien: 『Dynamics of Structures』(McGraw Hill)
片山恒雄、宮田利雄、国井隆弘: 『新体系土木工学、構造物の振動解析』(技報堂)

【成績の評価方法と評価項目】

主として、レポート課題の達成度により評価する。

【留意事項】

※平成年号の奇数年度に開講する。

鉄筋コンクリート特論II
Advanced Reinforced Concrete 2

講義 2単位 1学期

【担当教員】

丸山 久一・坂田 昇

【教員室または連絡先】

事務局棟副学長室(丸山)、非常勤講師(坂田)

【授業目的及び達成目標】

連続繊維補強材の特性について学習するとともに、それを用いた鉄筋コンクリート構造物の補強設計法について理解を深める。また、高流動コンクリートや高靱性繊維補強コンクリート等、最新のコンクリート材料技術の実際について習得する。

【授業項目】

- ① 連続繊維補強材の特性
- ② 連続繊維補強材とコンクリートとの付着特性
- ③ 曲げ補強効果
- ④ せん断補強効果
- ⑤ 耐震補強方法
- ⑥ 高流動コンクリートの技術の現状
- ⑦ 高靱性繊維補強コンクリートの特性
- ⑧ 最近の混和材料
- ⑨ 最近のコンクリートの品質管理とその問題点

【教科書】

特に、指定しない。

【参考書】

講義中に参考文献を紹介する。

【成績の評価方法と評価項目】

主として、レポート課題の達成度により評価する。

【留意事項】

※平成年号の偶数年度に開講する。

【担当教員】

下村 匠

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟703室

【授業目的及び達成目標】

コンクリート構造・材料における、いくつかの工学的な問題を取り上げ、
(1)問題の工学的背景を理解すること、
(2)現象のメカニズムを理解すること、
(3)メカニズムの数学的モデル化と数値解析による現象の予測の方法論を理解し、その方法論に則り適切なレベルの問題が解けるようになること、
を目標とする。

【授業キーワード】

鋼材, コンクリート, 複合材料, 力学一般, 構造解析, 設計論, コンクリート構造, 複合構造

【授業内容及び授業方法】

板書, プリント, OHPを用いて講義する. 簡単な数値解析プログラムを作成し, 数値実験を行うレポートを課し, 方法論の理解とその運用能力を補強する

【授業項目】

- § 鉄筋コンクリートの有限要素解析と構成則
- (1) 総論, 鉄筋コンクリートの有限要素解析の考え方
- (2) 鉄筋コンクリートの引張剛性1
- (3) 鉄筋コンクリートの引張剛性2
- (4) 鉄筋コンクリートの引張剛性3, レポート出題
- (5) コンクリートの弾塑性破壊構成則
- (6) コンクリートのひび割れ面における応力伝達1
- (7) コンクリートのひび割れ面における応力伝達2, レポート出題
- (8) 面内力を受ける鉄筋コンクリート板要素の解析フロー
- § コンクリート中の物質移動と構造物の劣化問題
- (1) 総論, コンクリート中の水分移動
- (2) コンクリートの微視的構造と水分の存在・移動
- (3) コンクリート中の水分の挙動に関する熱力学とモデル化1
- (4) コンクリート中の水分の挙動に関する熱力学とモデル化2
- (5) コンクリート中の水分移動現象の数値シミュレーション, レポート出題
- (6) コンクリート中の水分・塩化物イオンの連成移動
- (7) コンクリート構造物のライフスパンシミュレーション

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

岡村 甫, 前川宏一 著 鉄筋コンクリートの非線形解析と構成則 技報堂出版

【成績の評価方法及び評価項目】

レポートにより成績評価を行う

【留意事項】

題材はコンクリートであるが, 現象を科学的に理解し, メカニズムを数学的にモデル化し, 数値解析により予測する方法論は, 水理や地盤など建設諸分野に共通している. なお, 受講者に応じて, 本講義は英語で行うことがある.
※平成年号の偶数年度に開講する。

【参照ホームページアドレス】

<http://concrete.nagaokaut.ac.jp/>

【担当教員】

細山田 得三(HOSOYAMADA Tokuzo)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟807室
807, Mechanical and Civil Engineering Building No.1

【授業目的及び達成目標】

Advanced course in fluid mechanics. Includes the derivation of the Navier–Stokes equations, the idea of the boundary–layer theory, turbulence modeling and their applications. This lecture becomes the basics of the numeric analytical method

【授業キーワード】

Fluid Mechanics, Navier–Stokes equations, boundary–layer approximation, approximate method, turbulence model, free turbulence flow, suspension flow

【授業内容及び授業方法】

lecture

【授業項目】

- 1.Outline of fluid motion with friction
- 2.Outline of boundary–layer theory
- 3.General properties of the Navier–Stokes equations
- 4.Exact solutions of the Navier–Stokes equations
- 5.Boundary–layer equations for two–dimensional flow; boundary layer on a plate
- 6.General properties of the boundary–layer equations
- 7.Exact solutions of the steady–state boundary–layer equations in two–dimensional motion
- 8.Approximate methods for the solution of the two–dimensional, steady boundary–layer equations
- 9.Outline of turbulence modeling
- 10.Application of turbulence model to open–channel suspension flow
- 11.Application of turbulence model to two–dimensional inclined wall plume
- 12.Modeling of two–dimensional turbidity currents using kinetic energy of turbulence
- 13.Development of simulation model of powder snow avalanches
- 14.Recent advances of numerical method using turbulence model

【教科書】

(–)

【参考書】

Schlichting, H, Boundary Layer Theory, McGraw–Hill

【成績の評価方法と評価項目】

Written exam

【留意事項】

(–)

【担当教員】

下村 匠 (SHIMOMURA Takumi)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟703室

【授業目的及び達成目標】

The objectives of this lecture are:

- (1) to know engineering background,
 - (2) to understand mechanism from scientific viewpoint,
 - (3) to understand methodology of mathematical modeling, and
 - (4) to be able to execute numerical simulation,
- of several specific topic in the field of concrete material and structure.

【授業キーワード】

steel reinforcement, concrete, composite material, mechanics, structural analysis, structural design, concrete structures, and hybrid structure

【授業内容及び授業方法】

In addition to normal lecture, some materials are provided as printed matters or on-line. Assignments of numerical simulation are given several times.

【授業項目】

§ Finite Element analysis and constitutive models of RC (Reinforced Concrete)

- (1) Introduction, Outline of FE analysis of RC
 - (2) Tension stiffness of RC 1
 - (3) Tension stiffness of RC 2
 - (4) Tension stiffness of RC 3, Assignment
 - (5) Elasto-Plastic Fractural model for concrete
 - (6) Stress transfer along crack in concrete 1
 - (7) Stress transfer along crack in concrete 2, Assignment
 - (8) Flowchart of analysis of RC panel element under in-plane stress
- § Transport phenomena in concrete and deterioration problem of concrete structures
- (1) Introduction, Outline of moisture transport in concrete
 - (2) Microstructure of concrete and water in concrete
 - (3) Thermodynamics and mathematical modeling of water in concrete 1
 - (4) Thermodynamics and mathematical modeling of water in concrete 2
 - (5) Numerical simulation of moisture transport in concrete, Assignment
 - (6) Coupling analysis of transport of water and chloride ions in concrete
 - (7) Lifespan simulation of concrete structure

【参考書】

Okamura, H. and Maekawa, K.: Nonlinear Analysis and Constitutive Models of Reinforced Concrete, Gihodo-Shuppan, 1991

【成績の評価方法と評価項目】

Results of Assignments

【留意事項】

Though the topic of this lecture lies in concrete engineering, the methodology of mathematical modeling and numerical simulation is common with other field in civil engineering, such as steel structure, hydraulics and soil mechanics.

【参照ホームページアドレス】

<http://concrete.nagaokaut.ac.jp/>

【担当教員】

杉本 光隆 (SUGIMOTO Mitsutaka)

【教員室または連絡先】

Meck. and Civil eng. Bld. No.1, #808

【授業目的及び達成目標】

The goal of this class is to master the theoretical base of statistics concerned with measured data.

The concrete targets are as follows:

1. understand the process to solve linear inverse problem.
2. understand the process to solve non-linear inverse problem.
3. obtain the statistical view for measured data.
4. understand the concept of Robust estimate method for measured data including disturbance.

【授業キーワード】

statistics, least square method, non-linear optimization method, linear algebraic, Robust estimate method

【授業内容及び授業方法】

Theoretical base of statistics concerned with measured data will be described. Furthermore, some applications will be shown.

The lecture note will be distributed and the lecture will be done by using projector.

【授業項目】

- 1W Introduction
- 2W Review of learned provability and statistics
- 3W Linear least square method
- 4W Non-Linear least square method
- 5W Overview of error theory
- 6W Error theory I
- 7W Error theory II
- 8W Overview of optimization method
- 9W Optimization method I
- 10W Optimization method II
- 11W Solver of simultaneous equations
- 12W Evaluation method of measured data
- 13W Robust estimate method
- 14W Applications
- 15W Comment on reports

【成績の評価方法と評価項目】

成績評価方法:

Grade is given, based on the reports.

成績評価項目:

1. understand the process to solve linear inverse problem.
2. understand the process to solve non-linear inverse problem.
3. obtain the statistical view for measured data.

4. understand the concept of Robust estimate method for measured data including disturbance.

【留意事項】

Linear algebraic undergraduate level is required.

【担当教員】

豊田 浩史 (TOYOTA Hirofumi)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟705室

【授業目的及び達成目標】

This course introduces the students to the fundamentals of soil dynamics, including the behaviour of soils under seismic and dynamic loading. The course deals with the dynamic soil properties with the wide range of strain level. The main focus of the lectures is the explanation and determination of dynamic ground parameters for engineering design.

【授業キーワード】

Soil dynamics, earthquake, and liquefaction

【授業内容及び授業方法】

The course basically consists of lectures in which a liquid crystal projector and handouts are used. Time is sometimes made for tutorials. The contents of the lecture is given below.

【授業項目】

1. Characteristics of static and dynamic problems (1 weeks)
2. Equations of motion in elastic medium (2 weeks)
3. Wave propagation in two stratum (1 week)
4. The visco-elastic model (1 week)
5. Spring-dashpot model (1 week)
6. Measurement of dynamic deformation properties of soils (2 weeks)
7. Deformation characteristics of soils in small strain (2 weeks)
8. Cyclic stress in typical dynamic loading environments (1 week)
9. Nonlinear hysteresis model (1 week)
10. Liquefaction of sandy soils (2 weeks)
11. Examination (1 week)

【成績の評価方法と評価項目】

Evaluation will be based on reports(30%) and examination(70%)

Advanced Construction Engineering
Advanced Construction Engineering

講義 2単位 1学期

【担当教員】

宮木 康幸 (MIYAKI Yasuyuki)・未定

【授業目的及び達成目標】

Object of this coursework

The contents of this coursework mainly consists of how to manufacture and build the steel structure, including the way of protecting one from strong wind.

【担当教員】

大塚 悟 (OHTSUKA Satoru)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟802(大塚)

【授業目的及び達成目標】

This class offers the basic concept and numerical methods for stability analysis of geotechnical structures. The introduction of continuum mechanics and plasticity theory is explained first. Some effective theorems in plasticity are presented. Their application to stability assessment is reported in detail. The framework of rigid plastic finite element method and its application to geotechnical problems are expressed.

【授業キーワード】

Stability analysis, Continuum mechanics, Plasticity, Finite element method

【授業内容及び授業方法】

lecture and exercise

【授業項目】

- (1)Introduction of continuum mechanics
- (2)Plasticity theory
- (3)Plasticity theorems and their application to stability assessment
- (4)Rigid plastic finite element method

【教科書】

none

【参考書】

none

【成績の評価方法と評価項目】

test

【留意事項】

Basic understanding of continuum mechanics and finite element method

【担当教員】

丸山 暉彦 (MARUYAMA Teruhiko)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟707室
Room No.707 Phone 9613

【授業目的及び達成目標】

Understand how to make research process from the excellent papers on highway engineering

【授業キーワード】

pavenet material, pavement design, noise reduction, heat island, damage estimation of pavement

【授業内容及び授業方法】

Improve research ability while thinking background of research, founding of notable point, and solutions of problems.

【授業項目】

1. Development of Porous Pavements
2. Development of Polymer Modified Asphalt
3. History and State-of-the-Arts of Nondestructive Test for Pavements
4. Fatigue Tests for Asphalt Mixtures
5. Recycling of Pavement Material
6. Traffic Management in Cold Areas
7. ITS(Intelligent Transport Sysytem)
8. Pavement Management Sysytem
9. Construction and Maintenance of Concrete Pavements
10. Landscape Engineering of Highway
11. History and the State-of-the-Arts of Highway Strucyural Design Method
12. Special Pavements
13. Pavements on Bridge Slabs
14. Pavements in Airports

【教科書】

Research Papers appointed in the lectures

【成績の評価方法と評価項目】

Students should submit some report papers on the relation between their own research work and these lectures.

【担当教員】

長井 正嗣 (NAGAI Masatsugu)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟702室
Room 702, Mech. and Structural Engineering Build., ext.9602

【授業目的及び達成目標】

Structural characteristics, structural behavior and design method of steel-concrete hybrid (composite and mixed) bridges are dealt with. The lecture help students understand structural behavior of hebrid bridges and design them.

【授業キーワード】

steel, concrete, composite, bridges, mixed bridges, hybrid bridges

【授業内容及び授業方法】

Writing on blackboard, slide, OHP, Distribution of materials

【授業項目】

1. Characteristics and application of steel-concrete hybrid bridges
2. Design and construction of composite girder bridges
3. Cracking of concrete in tension
4. Crack width control design of continuous composite girder bridges

【教科書】

Evaluation is based on the equality of reports:100%

【担当教員】

細山田 得三 (HOSOYAMADA Tokuzo)

【教員室または連絡先】

機械建設1号棟807室

【授業目的及び達成目標】

Purposes of the lecture are 1. to study governing equations for waves, 2. to learn how to do numerical works on PC, 3. to study stability criteria of simulation and its accuracy, 4. to understand basic physics of various phenomena related to wave fields.

【授業キーワード】

Numerical simulation, Shallow water wave dynamics, Finite difference method

【授業内容及び授業方法】

lecture and presentation given by students

【授業項目】

1. Water quality in a Lake
2. Numerical Solution for Box Model
3. Transport of dissolved substance
4. Finite Difference Scheme
5. Kinematic waves
6. Numerical Accuracy
7. Long waves
8. Waves and flows at nearshore fields
9. Littoral Drift and consolidation of soil by waves
10. Stability of coastal structures

【教科書】

handout given by lecturer

【参考書】

Cornelis B.Vreugdenhil: Computational Hydraulics -An Introduction-, Springer-Verlag
Weiyang, T.: Shallow Water Hydrodynamics, Elsevier
C.C.Mei: The applied dynamics of ocean surface waves, World Scientific
R.G.Dean, R.A.Dalrymple: Water wave mechanics for engineering and scientists, Prentice-Hall
T.Sarpkaya, M.Issacson: Mechanics of wave forces on offshore structures, Van Nostrand Reinhold Company

【成績の評価方法と評価項目】

Homework, Report, Presentation in class

【留意事項】

Students who are interested in Computer Science are welcome especially.

【参照ホームページアドレス】

<http://rng.nagaokaut.ac.jp/adve/>

【担当教員】

Coulson David・高橋 祥司 (TAKAHASHI Shouji)・犬飼 直之 (INUKAI Naoyuki)

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

When making a presentation of research, starting with a simple introduction is most important. The easier your presentation is, the easier the questions will be (if your research is good!) Also in this course, students will have a chance to review English necessary for creating a clear easy-to-understand presentation in English of their own research topic. The teachers will give instruction in basic technical writing (grammar and vocabulary) and structure of English technical writing. This will include: summarizing their research, and deciding how to explain the outline of their research. Students must make a powerpoint presentation during the course and answer questions from other students and teachers.

【授業項目】

Week 1 (INTRODUCTION) Summary writing; making a complicated idea simple.
Week 2 Difference of spoken and written language in technical presentations.
Week 3 (USING TECHNICAL ENGLISH) Students continue introducing a basic process of their field of study, and questions from students in small groups.
Week 4 (DESCRIBING YOUR OWN RESEARCH) Identify the key points of your research in just a few lines. Loud speaking training.
Week 5 Students must present a short, perfect outline of their research topic.
Week 6 Work on asking questions in response to listening to research introductions.
Week 7 Work on answering questions in response to listening to research introductions.
Week 8 Appropriate language to criticize or praise other scholars' ideas.
Week 9 (POWERPOINT PRESENTATIONS) Introduction to writing a power point presentation. Introduction of one power presentation by the teacher.
Week 10 Summarizing your research in 15 slides.
Week 11 Editing your slides more. Short presentations in small groups followed by Q/A
Week 12 Talking with limited notes and short slides. Looking at the audience.
Week 13 Full presentation to the class followed by Q/A from teachers. (4/5 students)
Week 14 Full presentation to the class followed by Q/A from teachers. (4/5 students)
Week 15 Full presentation to the class followed by Q/A from teachers. (4/5 students)

【教科書】

Provided by teachers

【成績の評価方法と評価項目】

60% powerpoint presentation / 40% general participation

【留意事項】

This class will be limited to 15 students. Selection by written report.
THIS CLASS WILL BE SIMILAR TO WRITTEN PRESENTATIONS. BUT IT IS MORE SUITABLE FOR STUDENTS WHO ARE NOT SO CONFIDENT IN WRITING OR USING ENGLISH.

【担当教員】

Valerie. McGown・高橋 祥司(TAKAHASHI Shouji)・犬飼 直之 (INUKAI Naoyuki)

【教員室または連絡先】

Management and Information Systems (MIS), Room 404・経営情報系;404号室

【授業目的及び達成目標】

The aim of the course is to enable students to acquire the skills necessary to present a research paper in English at an international conference.

【授業キーワード】

oral presentation, participation in international conferences, academic/ research reports

【授業内容及び授業方法】

SYLLABUS

This course uses video and audio tapes to demonstrate the skills and language required in oral presentation. The course covers:

- registration for an international conference
- preparing the presentation (what and how)
- delivering the presentation
 - > beginning and ending
 - > audio-visual materials
 - > voice and body language
 - > handling questions.

The video also provides an example of a poor presentation.

Basically, the course is conducted in English but Japanese language is also used as appropriate.

【教科書】

TEXTBOOK

Copies of course materials (English and Japanese) are provided to students.

【成績の評価方法と評価項目】

ASSESSMENT

Students will be required to make two 20 minute presentations in English. The first or initial presentation is a "practice run" which is revised and improved for the final presentation. In principle, the final presentation accounts for 100% of the mark.

Each student is required to select an English article which reports research related to his/her own area of study. This provides the content of their presentation.

【留意事項】

Prerequisites:

The course assumes a reasonable level of competence in English language. Students are required to take a short spoken and written test before being admitted to the course.

【担当教員】

Coulson David・武田 雅敏

【教員室または連絡先】

非常勤講師

【授業目的及び達成目標】

In this course, students will have a chance to write a short English report of their own research topic. The teachers will give instruction in basic technical writing (grammar and vocabulary) and structure of English technical writing. This will include: abstract writing, describing experimental methods, results, and conclusion. Finally, students will submit a revised, correct English report of their own research topic in English. In addition, in this class, students can study how to structure a power point presentation by using only the most important information source from their own reports.

【授業項目】

Week 1 (INTRODUCTION) Direct writing style of English. Problem/solution pattern of English. Basic process descriptions.

Week 2 (USING TECHNICAL ENGLISH; GENERAL) Presentation and class reading of each student's chosen process.

Week 3 Students continue introducing a basic process of their field of study, and feedback from students in small groups. Then report to whole class.

Week 4 (WRITING SHORT REPORTS; ACADEMIC STYLE) Identify the key stages of an abstract. Students start preparing their abstracts.

Week 5 Each student to introduce a basic abstract of their research, and feedback from students in small groups. Presentation and class reading of each abstract by students.

Week 6 Reading of abstracts by students. Analyze why they are good or bad/class discussion. Link to reading and critique of important research paper for their field. Week 7 (WRITING LONGER REPORTS; 2-3 PAGES) Writing a review/critique of an important research paper for dissertation.

Week 8 Each student to introduce their critique of a paper of their field of study, and feedback from other students in small groups.

Week 9 Comparison of an academic article and a popular article on the same topic.

Week 10 Work on clear summary/conclusion writing and limited use of statistics

Week 11 (POWERPOINT PRESENTATIONS) Introduction to writing a power point presentation.

Introduction of one power presentation by the teacher.

Week 12 15 minute powerpoint presentations by each student and feedback.

Week 13 Students start work on revising their short research report (including abstract, research paper report, basic overview of their research, results and conclusion)

Week 14 15 minute powerpoint presentations by each student and feedback.

Week 15 Students submit final draft of research reports. Last powerpoint presentations.

【教科書】

Provided by teachers

【成績の評価方法と評価項目】

50% Research report / 30% powerpoint presentation / 20% general participation

【留意事項】

This class will be limited to 15 students. Selection by written report.

【担当教員】

小松 高行

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報1号棟423室(小松)

【授業目的及び達成目標】

1. 授業目的

研究者、技術者として必須である英語での論文の書き方を学習する。論文の意義と共に、論文構成におけるそれぞれの役割を理解する。

2. 達成目標

論文構成の基本的な考え方を理解し、演習を繰り返すことにより、論理的で的確な論文作成能力、特に、Abstract, Introduction, Discussionの作成能力を養う。

【授業キーワード】

Manuscript, Abstract, Introduction, Experimental, Result, Discussion, Reference, 論文構成

【授業内容及び授業方法】

実際の英語論文を用いて論文構成と書き方の基本を理解する。特に、英語論文のAbstractおよびIntroductionについて書き方の演習を繰り返し、英文読解および作成能力を高める。学生自身の研究を題材にした演習を行う。10-20人前後の受講者が望ましいので、受講者が多い場合には、選抜試験を行う。

【授業項目】

1. 論文の意義、論文構成を説明する。LetterとFull Paperの違いを説明する。
2. 実際の英語論文を読み、Abstract, Introduction, Discussionの書き方を演習する。
3. 学生自身の研究を題材にして、AbstractおよびIntroductionについて書き方の演習を行う。
4. 期末試験

【教科書】

配布プリントを使用する。

【成績の評価方法と評価項目】

授業中での演習(30%)、レポート(30%)、期末試験(40%)により評価する。

【留意事項】

英語の文法や単語については基本的知識があることが前提である。演習における英語論文は主として材料に関するものを使用する。